平成２９年度米子市歴史館運営委員会議事録　概要

開会

岡文化課長挨拶

議題１　委員長、副委員長の選出

委員長に安江禎晃委員、副委員長に南前孝明委員を選出

（安江委員長）それでは、議事に入ります。議題２の平成２９年度事業報告について、各施設より報告をお願いします。

議題２　平成２９年度事業報告について資料内容説明・報告

（安江委員長）平成２９年度事業報告についてご説明いただきましたが、何かご意見等ございませんでしょうか。ないようですので次の議題３について説明をお願いします。

議題３　平成３０年度事業計画について資料内容説明

（安江委員長）平成３０年度事業計画について説明がありました。皆さんからご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

（内田委員）新年度から経済部になるということですが、新年度からの事業展開として観光ということを視点に入れた事業展開をしていかないといけないのかなということが気になりました。
　そういう視点が必要だとすると、人が来るような政策も考えないといけないと思いました。
　歴史館の説明の中で、日本刀の寄贈を受けるとのことですが、何本で、いつの時代のものですか？

（山陰歴史館）名前は伯耆国藤原吉幸で　明治３年作で新新刀。江戸時代までが古刀、江戸時代以降が新刀で寛永以降は新新刀だということで、きちんとした木の鞘（さや）ではなく装備の仕方は鍔（つば）などは上等ではないと見ました。かなり重く２尺半から３尺で、あと２組ほどあるということで、それも歴史館でいただこうかと思っています。と言っても寄贈を受けるのは米子市であくまで保管が歴史館ということです。

（内田委員）今、日本刀がちょっとしたブームになっていますが、そういうのもまた展示されるのですか？

（山陰歴史館）その予定です。

（内田委員）福市資料館で火起こしや勾玉づくりをしておられますが、火起こしはその起こした火を使って、例えばお茶を沸かすとか、その火を使って何かするというような事業展開ができればと思いました。

（福市考古資料館）実際はなかなか火が起こらない。簡単に火が起こせた方がいいのかもしれませんが、そうすると火を起こす楽しみがなくなるので、比較的火が起こしにくい材料を使って体験させています。実際に熟練してくると数分で点くということですが、そうするとそれで終わってしまうので、１０分から１５分がんばって、はずみ車を回す、ということで少し硬い木を使っています。なかよし学級で１回３０人位の子どもがいますと２人位起こすことができます。今、起こした火で何かをというご意見をいただきましたのでそういう計画も考えてみたいと思います。

（内田委員）大山青年の家に連れて行っても火を大きくするということはなかなかできなくて、小さい火をどうしたら長持ちさせれるのかということを体験させ、火の大切さというのを子どもたちに伝えれたらと思います。

（委員長）かつて、淀江で火起こしをして古代米を炊いたということもあったと思います。そういったように関連づけていければありがたいことだと思います。

（事務局）観光視点の話が出ましたので、全体的な話と施設ごとの個別の話があると思いますが、全体的な話をさせてもらいます。今、内田委員がおっしゃいましたように観光視点ということはひとつ重要な視点になってきます。合わせて、地域の人により知っていただく、親しんでいただくという、地域に向けた取り組みの強化というのも必要だと考えております。観光視点と言えばどちらかというと、外向きなイメージがあるのですが、両方やっていかなくてはいけないと思っています。その中で例えばＰＲの方法でイベントをするが、ＰＲが行き届いてないというところをどうやっていくのか、それは、外向きにあるのと、市民の方に内向きにやるのと両方していかないといけないというのがあるのと、イベントをするにしても、例えば、地域の方々といろいろ連携を図かり、その中で、関わってもらう人を増やしていく。それは、もしかしたら、外の方も連携していただけるかもしれない、いろいろな可能性が広がっていくのだろうなと思っています。観光という視点で言えば、観光業者とか地域の観光振興機構、ＤＭＯとかそういったものもできてくるということですので、そういったところとできるだけ連携を図っていき、いろいろな観光地と合わせてどのように人をもって行くのかということも考えていかないといけないのかなと思っています。イベントそのものも、例えば歴史を知っていただくためにすることと、その場を楽しんでいただくためにする、景観を楽しんでいただくためにするというある程度ポイントを時にはしぼっていったり、いろいろな視点で見てもらえるような企画の仕方というのも必要かなと思っています。場合によっては、いろいろ取り込んだ形で幅広い方に来ていただくということも必要かなと思います。非常に課題は多

いのですが、できるところから１つずつ、そういった考え方でアプローチしていくことが必要かなと思っています。

（上淀白鳳の丘展示館）館内の説明を２~３０分でするのですが、まず、来られた方が驚かれるのが何でこんなすごいものがここにあるのに皆知らないのか？ということを聞かれる、情報発信が足りないのかなと思います。展示館をどういう施設なのかを考えた時に、本来は歴史を知るための道しるべになる施設であると同時に、外から来る人にも観光的な要素としても十分通用するだけの内容を備えた施設だけれども、観光という観点が少し弱かったのかなと思います。それと合わせてあのエリアというのは近くに妻木晩田があり向山古墳群があり上淀廃寺があるという古代遺跡の宝庫のようなところだけれど、パッケージした情報が全くないので、１施設というよりエリア全体を知ってもらうための取組が必要だと思っているところです。それについては、淀江に振興本部というのができますし、機構改正というのもありますので、行政関係部署とも相談しながら具体的な方策というのを練っていきたいと思います。ということで、特に今年情報発信を充実させるような取り組みをやっていかなくてはと思っています。

（委員長）よどえまちづくり推進室から何かありますか？

（よどえまちづくり推進室）機構改正の中でよどえまちづくり推進室は、この度、今の企画部が総合政策部に変わって、この総合政策部の中に淀江振興本部というのが作られて、よどえまちづくり推進室も淀江振興課と名称が変わって、引き続き淀江支所に置かれるということになります。先程、上淀白鳳の丘展示館の副館長が言われましたように個々で向かうというのは限界がありまして、妻木晩田も含めたエリアで、いろいろなことを連携をとりながらやっていかなくてはと思っているところで、関係者の方とご協力を得ながら進めていきたいと思います。

（上村委員）山陰歴史館の職員さんはどのくらいいらっしゃるのですか？

（山陰歴史館）学芸員２名、受付３名、館長１名の５名です。

（上村委員）先程歴史館館長さんがお話しされたように、確かに建物が古いので、やや冬場は寒いし、夏は暑いというのもあると思うのですが、職員さんの働きやすさというのはどうですか？
そのあたりというのは市の方が考えていかないといけないことなのかなと思います。以前に事務室にお邪魔した時にも、非常に狭いところに、沢山おられて働きにくいのではないかという気がしているのですが。そのあたりは市の方は何か考えておられるのでしょうか？

（事務局）山陰歴史館の職員の働きやすさということですが、あの建物自体が文化財ということになっていますので、大々的な改装ができないという中で、今ある所を有効活用する形であのような事務室になっています。確かに、手狭に見える所もあるかもしれませんが、あの部屋は空調も付け

ておりまして、その中であとは空いたスペースを使っていただくとか、できるだけ使える部分は使っていただきながら、事務室としては、そうはいっても壁を壊して広げたりとか新たに増設するというのは難しいところです。

（上村委員）難しいとは思いますが、例えば受付の辺りで、寒いところで受付しておられると思うのですが、パーテーションのようなもので、もう少し仕事をしやすい環境というのを我々の立場のものが考えていかないといけないのかなと思います。

（事務局）可能な部分については、改善できるところはしていきたいと思いますし、現場の声も聞きながら対応していきたいと思います。

（上村委員）上淀白鳳の丘展示館で小学校がなかなか来られないという話で、６年生の社会科の学習が４月から始まって子どもたちが一番学習している所というのは、今の小学校の行事でいうと修学旅行と重なって、なかなか同じ時期に校外学習に出かけられないのと、５，６年生が６月に陸上大会があって、このあたりが外に出れない状況で、そういったこともあって出にくい時期かと思います。歴史館に行く３年生の教材は３学期になってからで、教科の中の単元の配列もあって、出にくい時期と出やすい時期があるので、魅力的なものにしたから出られるかといったら難しいかなと思います。

（上淀白鳳の丘展示館）大体察しがついているところで、ただ、学校が１学年まとまってというよりも、来れる家庭とか子供会あたりで行ってみようかというときに、情報発信するのに個人情報の関係で学校にお願いしてよいものかどうか迷っているところです。こういったことをやりますという時に地区の子供会なんかで子どもたちに情報発信をどうすればいいのかなと悩んでいます。例えば学校に行って子供会の会長さんを教えてくださいと言っても、個人情報の関係で教えてもらえない。そのあたりで何かいい方法がないかなと思います。

（上村委員）古代体験学習というのは、なかよし学級が夏休みも預かるようになって、どのように夏場を過ごすのか苦労しておられる中で、非常に喜んでおられて、特になかよし学級の指導員さんがいろいろ準備しなくても、文化課と埋蔵文化財センターの方が来て指導していただけるというので、もっと回数があってもいいくらい喜んでおられました。

（福市考古資料館）職員が常に出れるというわけではないので、教育委員会と共催という形でやらせていただいていまして、これ以上回数が増えるとちょっと大変かなと思いますが、がんばってやっていきたいと思います。

（山陰歴史館）先程、働きやすい職場ということが出ましたが、人間関係においては働きやすいと思っていますが、学芸員はどう思っているかわかりません。本当は、館長は２階の元市長室にいる

ことになるのですが、寂しいのでついつい下の事務所にいるのですが、そういう意味では働きやすい職場だと思います。あと、受付の人に寒くないか聞きますと寒くないようです。ただ、苦労しているのがストーブを置いているのですが、１日に灯油缶１缶使うようで、２階にも置いているのですが灯油缶を２階に持って上がるのが大変のようです。

（事務局）働く環境についてですが、今歴史館が収蔵品でいっぱいになっているのですが、４月から体育館が１箇所空くことになりまして、歴史館の収蔵品を一部そちらに動かせるようになります。そうすると、歴史館のスペースも少し空くので、学芸員１人１部屋ずつ研究用に用意できればいいのですが、なにぶん収蔵品が非常に多く、今後も減ることはありませんので、その辺も踏まえながら新しいスペースの確保に努めてまいりたいと思っています。

（委員長）体育館の空調とかの整備はしなくてもいいのですか？

（事務局）今も歴史館は夏は暑く、冬は寒いという自然空調になっているのですが、体育館も同じようになると思います。温度管理の必要のないものを体育館に持って行こうかと思っています。

（委員長）施錠などもしっかりお願いしたいと思います。働きやすい職場のところで、副館長はいかがですか？

（山陰歴史館）館内は和気あいあいと館長指導のもと楽しくさせていただいております。

（岩佐委員）組織改革の改正のことで、教育委員会文化課が経済部になるということで、大変大きな変化になると思います。各館の運営について、管理のことと、予算の配分について、教育委員会でなくなったために縮小したり衰退したりしないようにしないといけないと思います。どちらかというと、前向きな改正になっていますでしょうか。もうひとつは、観光と文化というものがひっつくわけでして、観光振興と文化財の保護というものの観点が必ずしも同じ方向になるとは限らないということもありますので、今までは教育委員会文化課という組織でしたが、変わっていくわけなので、そこのところは、観光は文化財を使って振興するというのは大いに賛成ですが、目に見えないところにしわ寄せが出てきたら良くないと思います。新しい年度になって組織が変わるわけですが、各施設でいろいろな計画が示されましたが、組織変えになった事とこの事業計画とは関係がありますでしょうか。

（事務局）組織改正との関係ですが、文化財に関しましては、権限は教育委員会に残っています。教育委員会の名前で文化財の現状変更など決定するというのは、今と変わりません。ある意味今までできなかったことは、変わってからもできません。活用面でどういう活用の仕方をしていくかというところが大きく変わるところと考えています。文化財の保存とか、歴史を学ぶという部分は変わらないと考えてもらって、活用の中で観光という視点が入ってくるということと、もうひとつは、

観光といいながらも地域の人により知っていただくという意識を強めていくのかなと思っています。事業に関しましては、３０年度予算を組んだ時には、大きな組織改正というのが念頭にありませんでしたので、既存の予算の枠組みの中で考えているのですが、事業もそれほど大きく変わったこともなく、逆に突拍子もないことができるわけでもないので、今考えられることを地道にやっていくことと、それをさらにＰＲするとか、いろいろな方に知っていただいたり、魅力を外に伝えていくという、アプローチの仕方、考え方に基づいて３０年度事業は進めていくものと思っています。その後にさらに、何かが変わるようなことがあれば、それは当然予算に反映させたり、事業の組み方もかわってくるのであれば、このような場でお話しさせていただいて、そこで検討しご意見をいただくことになってくるのではと思っています。

（委員長）岩佐委員のこの考えは、変わったことによって文化財保護の神髄がおろそかにならないようにということだと思います。

（遠藤委員）観光的な視点、地域振興的な視点になると思うのですが、今、普段皆さま方が少ない人数の中で研究分析をし、専門家を受入れ、青少年の育成、さらに地域振興、観光振興も含めということで、こんなにやれるのか、たくさんの課題があると思います。そのあたりで私たちは民間ですので、官民一体でやるというのがいいところなのではないかなと思っています。民間で一般社団を立ち上げたり、ＮＰＯ法人を立ち上げたり、いろいろな団体が動いています。その中には地域の文化とか、歴史とか商業的なものを掲げながら、いろいろなことをやっています。例えば、文化とか地域というところでいうと、フォトロケーションという、これはオーストラリア発なのですが、いろいろな地域文化と施設を含めた、インスタというのがあると思うのですがフォトとロケーションを絡めて観光半分、情報発信半分でするゲームです。フランスでは地域の食とか文化とかウォークを絡めて、ガストロノミーウォークというのが先日新聞に載っていました。そういうやり方があったり、ドイツではウェルネスウォークといって、地域の文化、歴史と健康ウォークを重ねるやり方があります。日本の行政とか地域の団体がしはじめています。そこに情報を載せたり、そういうところにのっていただいたり、お互いに情報交換させてもらったり、どちらかというと情報発信や地域振興というのは私たちの得意分野であったりしますので、そんなことでお手伝いができたらと思っています。お金を稼ぎたいというのがあって、事業者が稼ぐのではなくて、お金をもらって、少しでも、施設、学芸員さん、あるいは研究分析するのにも全部コストがかかるわけで、ＤＶＤに収める、データをとるのにもお金がかかるので、そういうお金が少しでも回るような地域振興の方法がないかいつも考えています。さらに、官と民が一体になって進めていければと思うので、ご相談いただければと思います。

（事務局）今、大変いいご意見をいただきました。ありがたいと思いました。我々だけではできることも限られてきますので、情報発信していってそれを共有して広げていっていただけると、それは大変ありがたいことだと思いますので、こちらからも情報発信しますし、委員の方々からも何かお気づきの点があれば、いつでも結構ですので我々、それぞれの施設でも結構ですので教えていた

だければと思います。よろしくお願いいたします。

（委員長）ほかにはございませんか。無いようです。いろいろ熱心にご意見ありがとうございました。３施設とも十分な施設ではなく、人員的にも十分でない中で努力をしながら事業を展開し、また研究を進めていただき、本当にありがたいことです。モニタリングでまとめてあるようにいろいろご意見をいただいております。これをもとにそれぞれの施設が邁進していただきたいと思います。今後もよろしくお願いします。

（前田委員）その他でひとつよろしいでしょうか。淀江のエリアですけれど、この頃イノシシがよく出てまして、公園等もありますし、向山４号墳にいたり、石馬谷古墳周辺に出ていて、２、３年前から電線をはってはいます。廃寺跡にも出ます。石馬谷から降りてくる水田の方とか、墓地の方にはアナグマのようなものが出ています。観光客の人が遭遇されたりするとびっくりされるのではないかと思います。職員さんは出ることを把握しておられて、なにか対策をしておられるのでしょうか。

（事務局）特に上淀のところのイノシシは芝生をはがされて、その下のミミズを掘り、昨日も行ってみたのですがかなりやられています。イタチごっこになっているところもあります。近年は大山の植田正二美術館のところまではツキノワグマの確認情報が出ています。もしかしたら、クマも可能性が出てきています。そういう鳥獣対策をどうするかというのは、これからいろいろな方面と相談しながらやっていかないといけないと思っています。ただ、電線をはるというので、以前事故があったりしたこともあって、どういう作戦がとれるのかというのは、全国の遺跡で大きな問題になっているところですので、ご意見をいただきましたので、今後、どういった対策をとっていくのか考えていきたいと思います。

（長谷川委員）シカもでるようです。看板とか、皆さんがあまり怖がられないような方法でと思います。

（事務局）検討したいと思います。

（前田委員）米子城の今後の展開を

（事務局）米子城は平成３０年度に昨年作りました米子城保存活用計画に基づいて整備基本計画というのを策定する予定にしています。それが今後の保存活用のための整備の基礎になる方向性を出すものになります。それと合わせまして、今年あたりから強力に進めていますソフト事業の米子城魅せるプロジェクトも展開していく予定にしています。４月７日の城下町ウォークに始まって２１日に発掘調査の調査報告会もあったり、夏場には山の日との連携イベントがあったり、今年は大山１３００年祭の連携イベントをしたり、秋には大きなシンポジウムとか、米子城フェスタのような

ことも考えております。その中で歴史館は米子城のエリアにありますし米子城関係の展示をしているということもありますので、企画展として１０月には米子城展といったものも開催をいたしますし、それから、発掘品のバックヤードとして埋蔵文化財センターとか考古資料館の力も借りながらいろいろな視点で米子城を市民の方、来訪者の方に見ていただくことも考えています。米子城は城跡がメインなのですが、加えて城下町の魅力というのも合わせて伝えていこうということで、先程少し話が出ましたが、今度、民間の一般社団法人観光まちづくり公社が立ち上がってできますし、従来からある観光協会とも連携を図って、エリアとしての発信をしていきたいと思っています。

（委員長）ほかにございますでしょうか。無いようですので、以上で議事を終了します。